

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

## 試合のときのきまりとマナーを学ぶ



3回目の合同練習を行いました。今回は、試合のきまりとマナーについて学びました。今のところ、すべての大会がストップしていますので、今年入部した子どもたちは、大会はもちろん、練習試合も経験したことがなく、試合経験がまったくありません。そのため、試合に出る時のきまりやマナーを学ぶ機会をもつことができていません。

試合は、出場選手だけでやれるものではないこと、自分たちも他チームの試合のときに協力しなければならないことを学んでおかなければなりません。試合に出るためのきまりとマナーを学んでおかなければ、スムーズに試合に参加することができませんし、相手チームの人たちや試合をサポートしてくれる関係者に失礼なことになってしまいます。具体的には、次のようなことを学んでいます。

- ・ コートのしくみ（選手ベンチ、オフィシャル席、得点板、応援席、審判などの位置）
- ・ オフィシャルの仕事（スコアラー、6分タイマー、24秒タイマー、ファウルなど）
- ・ 試合開始時、終了時のマナーなど

学習後、実際の試合を通して、その場その場でのマナー、オフィシャルサポートのしかたなど、体験的に学びを深めました。

次回は、試合のなかで、ミニバスケット競技のルールについて学習しながら、良質なプレーについて学びを深める機会とします。



### 《プレー内容について》

他チームと試合という形でプレーを試すことができました。時間の関係で、一人1クォーターの出場でしたが、チームになるためのプレーを試合のなかでみることができました。

た。

- 速攻場面で、たてのラインを意識したボール運びや、中にドライブで切り込みながら、ノールックで逆サイドにきれいなバウンドパスを通すプレーがありました。
- チームメイトがはずしたシュートのカバーリングがリバンドですが、その意識が非常に高く出ており、その後のシュート意識も高く現れていました。ただ、シュートの安定感がまだまだです。
- 相手をよく見て、かけひきをしながら、フェイント・フェイクなどのテクニックを使ってカットインドライブからシュートにいたり、アシストパスを出したりなどのいいプレーが見られました。ただ、ここでもシュートははずすことが多くシュート力には課題が残っています。

直方クラブでは、「自分（たち）で考え、判断し、行動する」ことを求め続けています。この場面では、自分でドリブルなのか、シュートなのか、逆サイドにパスなのか…。バスケット競技は秒単位で競い合うゲームです。判断が1秒遅ければ、次のプレー選択は変わります。そんな競技でワンプレーごとに指示をうけなければ自分で行うことがわからないでは、プレーできませんし、バスケットを楽しむことなんてできません。その場その場で自分で判断してプレーしなければなりません。その判断材料（情報）を目と耳で瞬時につかみ、正しい選択をしていくという、非常に高度な能力が要求されるスポーツです。とても難しいことですが、それだけにおもしろい、楽しいスポーツとも言えますし、総合的に能力を高めることのできるスポーツでもあります。なので、先で他のスポーツに転身しても、そこでも伸びる可能性の高いスポーツでもあります。

「自分（たち）で考え、判断し、行動する」ことは、プレーだけで要求しているものではありません。久しぶりに練習試合用の会場設定をしました。準備や片付けは、いつも以上に作業内容があります。いつもは学年ごとに役割が決まっていますが、合同練習（練習試合）のときなどの会場設営は役割を決めていません。ここで、その子その子の日常の力が試されます。自分の役割をこなすことは当然ですが、その後が違います。自分の役割を終えて、後は自分のことをしたり、メンバーと話していたりする子。一方で、「先生ほかにすることはありませんか」と聞きにくることのできる子。この違いは大きいですね。

バスケットのプレーで求めている力に、「視野を広くもち常に全体を把握する力」「先の見通しをもつ、先をよむ力」があります。準備や片付けなどの場面で、ほかにすることはないかと考えられる子。活動中のボールの散乱に気づき片付けに動ける子。ここでボールを扱ったら危ないと察知し場所を考えられる子。ここを通ったら迷惑をかけると、通るところを変えたりタイミングを計ったりすることができる子…。その子の本当の力はバスケットのプレー以外でも見ることができます。